

2026・一・一【角川俳句賞2026プランA tier1】選13句

12行3段組14ポ
2026年1月1日
2025<1>桐10

角 やはらかな闇につつんで難をさむ

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 頭から人現はるる御身拭

角 桜貝夢の化石と思ひけり

角 仮の名と言はれし仮名ぞ花吹雪

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 五月雨の止むを忘れて明日もかな

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨の川

角 警報を自ら発し蚊の襲来

角 アパートの灯り初めたる秋の暮

角 アパートにまだ灯の点かず秋の暮

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 毎年よ冬来りなば冬籠

2026・一・二【角川俳句賞2026 A t 02 全42句】選16句

12行3段組14ポ
2026年1月2日 21:58
へ1 へ桐10

角 涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 頭から人現はるる御身拭

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 桜貝夢の化石と思ひけり

角 後ろから押され押されて大晦日

角 地虫出づれど礎石の上に何もなし

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 根の先も近くあるらむ桃と梅

角 桃と梅雛に仕へる姉いもと

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 警報を自ら発し蚊の飛来

角 テトラポットの積まれ積まれて流れ星

角 忘却に彼方ありけり落し水

2026・一・三【角川俳句賞2026 A to 03 全54句】選19句

12行3段組14ポ
2026年1月3日
19:43
へ1
桐10

角 日を溜めてわが身を溶かすうす氷

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角 松手入こんな大きな枝までも

角 昭和の日甘きキャラメル・チョコレート

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 桜貝夢の化石と思ひけり

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 根の先も近くあるらむ桃と梅

角 熊食べて熊の親子の夢を見て

角 桃と梅雛に仕へる姉いもと

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 飛来する蚊や警報を発しつつ

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 蚕豆や鳶は鷹にならずとも

2026・一・4【角川俳句賞2026 At-0418/60句】

12行3段組14ポ
2026年1月4日 16:00 へ1 へ桐10

角 日を溜めてわが身を溶かすうす氷

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 姉いもと雛に仕へる梅と桃

角 松手入こんな大きな枝までも

角 桜貝夢の化石と思ふなり

角 熊食べて熊の親子の夢を見て

角 涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 昭和の日甘きキャラメル・チョコレート

角 蚕豆や鳶は鷹にならずとも

角 スッピンの涼しき顔の憎らしき

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 蠅と蚊の羽音の違い体形も

角 姉妹は雛に仕へる梅と桃

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 松手入こんな大きな枝までも

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 母校には待つ人もなし桜咲く

角 きゆつきゆつと生きて深夜の雪を踏む

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 花冷の十四五人に出開帳

角 湯たんぽの余熱のごとし日向ぼこ

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレ^ト

角 白鳥の背骨に続く首の骨

角 飛び立てり○の中から巣立鳥

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 姉妹は雛に仕へる梅と桃

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 鶏頭は重く曼珠沙華は軽く

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 母校すでに待つ人もなし桜咲く

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな

角 花冷の十四五人に出開帳

角 太陽の余熱と共に日向ぼこ

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレ^ト

角 白鳥の背骨に続く首の骨

角 飛び立てり○の中から巣立鳥

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

2026・一・31【角川俳句賞2026 At-09 21/99句1増2減】

12行3段組14ボ
2026年1月31日 16:54
へ1 へ桐10

角 ふたりして雛に仕へる梅と桃

角 太陽の余熱大切日向ぼこ

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 母校とて知る人もなし桜咲く

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 花冷の十四五人に出開帳

角 きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレ
ト

角 白鳥の背骨に続く首の骨

角 飛び立てり○の中から巣立鳥

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

2026・2・3【角川俳句賞2026 A to 10 21/105句0増0減】

12行3段組14ボ
2026年2月3日 12:17 へ1 へ桐10

角 梅と桃ひなにかしづくふたりかな

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 母校とて知る人もなし桜咲く

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな

角 花冷の十四五人に出開帳

角 衰へし日にも力や日向ぼこ

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレ
ト

角 白鳥の背骨に続く首の骨

角 飛び立てり○の中から巣立鳥

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 春光是我に隣りの空席に

角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 押し込んで息は音色に麗かに

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 梅と桃のやうに雛にかしづけり

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 母校とて知る人もなし桜咲く

角 秋刀魚焼く焦目しつかりミディアムに

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 花冷の十四五人に出開帳

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレート

角 きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな

角 飛び立てり○の中から巣立鳥

角 衰へし日にも力や日向ぼこ

角 五月雨の止むを忘るる明日かな

角 凍鶴の首の骨から背骨へと

2026・4・17【角川俳句賞2026 At-18 34/192句8増0減】

12行3段組14ポ 2026年4月17日 11:58 <1> 桐10

角 梅と桃のやうに難にかしづくよ

角 花冷の十四五人に出開帳

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 新参の墓石のある彼岸かな

角 をさな子のほつぺた丸くチューリップ

角 土と水かけて終らす焚火かな

角 土の上に芽吹き木々の枝に芽吹く

角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 あの時もこの葉桜と夏柳

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 ヒラガナとかたかな習ふ四月馬鹿

角 飛び立てり〇の中から巢立鳥

角 角部屋の今こそ光れ初日の出

角 友の字が反の字に似る万愚節

角 駅ホーム見よ日本の更衣

角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しさよ

角 母校とて知る人もなし桜咲く

角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり

角 冬籠さらに己れに籠りけり

角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る

角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰

角 衰へし日にも力や日向ぼこ

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 寒卵割つて裸の寒卵

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角 卵焼くるくる巻いて春を待つ

角 湯ぼてりの如くいささか花疲れ

角 台風を迎へ撃つべく遊園地

角 花篝忍者の潜む夜のお濠

角 水槽で終る一生星祭

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 厚布団羽根と羽毛の違いあり
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 働いて針より細き蟻の脚	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 新参の墓石のある彼岸かな	角 蟻地獄向三軒両隣	角 卵焼くるくる巻いて春を待つ
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 土の上に芽吹き木々の枝に芽吹く	角 蠅と蚊の羽音の違い体形も	
角 ヒラガナとかたかなで書く万愚節	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 水槽で終る一生星祭	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 土と水かけて終らす焚火かな	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 年用意わからぬ箱は開けてみる	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 去年今年地に張り付いて滑走路	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 角部屋の今こそ光れ初日の出	
角 飛び立てり○の中から巣立鳥	角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しきよ	
角 駅ホーム見よ日本の更衣	角 冬籠ひとり己れに籠りけり	
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 衰へし日にも力や日向ぼこ	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 厚布団羽根と羽毛の違ひあり
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 四阿の心もとなき夕立かな	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 新参の墓石のある彼岸かな	角 働いて針より細き蟻の脚	角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 蟻地獄向三軒両隣	
角 土の上に芽吹き木々の枝にも芽吹く	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 水槽で終る一生星祭	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 火恋しひとり己れに籠りなば	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 土と水かけて終らす焚火かな	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しきよ	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 年用意わからぬ箱は開けてみる	
角 飛び立てり○の中から巣立鳥	角 去年今年地に張り付いて滑走路	
角 電車到着見よ日本の更衣	角 角部屋の今こそ光れ初日の出	
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 衰へし日にも力や日向ぼこ	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 厚布団羽根と羽毛の違ひあり
角 新参の墓石のある彼岸かな	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 働いて針より細き蟻の脚	角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 地に芽吹き木々にも芽吹く良い天気	角 蟻地獄向三軒両隣	
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 水槽で終る一生星祭	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 火恋しひとり己れに籠りなば	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 土と水かけて終らす焚火かな	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しきよ	
角 豆ごはんいただきますの声の張り	角 年用意わからぬ箱は開けてみる	
角 飛び立つや○の中から巣立鳥	角 去年今年地に張り付いて滑走路	
角 電車到着見よ日本の更衣	角 角部屋の今こそ光れ初日の出	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 新参の墓石のある彼岸かな	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 働いて針より細き蟻の脚	
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 蟻地獄向三軒両隣	
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 水槽で終る一生星祭	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 火恋しひとり己れに籠りなば	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 土と水かけて終らす焚火かな	
角 豆めしのいただきますの子らの声	角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しさよ	
角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 去年今年地に張り付いて滑走路	
角 電車到着見よ日本の更衣	角 角部屋の今こそ光れ初日の出	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 新参の墓石のある彼岸かな	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 働いて針より細き蟻の脚	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 蟻地獄向三軒両隣	角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 ドア明けて我家の外の秋の暮	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 玄関に地べたありけり秋の暮	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 水槽で終る一生星祭	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 火恋しひとり己れに籠りなば	
角 豆めしのいただきますもどかしく	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 土と水かけて終らす焚火かな	
角 電車到着見よ日本の更衣	角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しきよ	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 火より人恋しく籠る山河かな
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 青春の涼しき色に更衣	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 新参の墓石のある彼岸寺	角 電車到着見よ日本の更衣	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 終点の駅に港や卒業す	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 土と水かけて終らす焚火かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 働いて針より細き蟻の脚	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 年輪を切れば年輪蟬時雨	角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 蟻地獄向三軒両隣	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	
角 うちの子は云々と言ふその子猫	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 玄関に小さい地べたや秋の暮	
角 豆めしのいただきますももどかしう	角 水槽で終る一生星祭	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 電車到着見よ日本の更衣	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 終点の駅に港や卒業す	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 うちの子の自慢話とその子猫
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 働いて針より細き蟻の脚	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 水槽で終る 一生星祭	
角 昭和の日キヤラメル甘しチョコ苦し	角 火より人恋しく籠る山河かな	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実	
角 豆めしのいただきますもどかしう	角 落葉道駅へ続けりお寺へも	
角 飛び立つや○の中から巣立鳥	角 土と水かけて終らす焚火かな	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 豆めしのいただきますもどかしう	角 水槽で終る 一生星祭
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 火より人恋しく籠る山河かな
角 雛の間に半月ほどの昼夜かな	角 電車到着見よ日本の更衣	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 終点の駅に港や卒業す	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 教室の壁の画鋏も夏休	角 土と水かけて終らす焚火かな
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 水風呂をプールのプールと喜びぬ	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蟬の字に憚の字が紛れ込む	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 働いて針より細き蟻の脚	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 蠅と蚊の羽音の違い体形も	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな	
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 豆めしのいただきますもどかしう	角 水槽で終る 一生星祭
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 火より人恋しく籠る山河かな
角 雛の間に半月ほどの昼夜かな	角 電車到着見よ日本の更衣	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 終点の駅に港や卒業す	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 土と水かけて終らす焚火かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 教室の壁の画鋏も夏休	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 水風呂をプールのプールと喜びぬ	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蟬の字に憚の字が紛れ込む	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 働いて針より細き蟻の脚	角 田を植ゑて祭のとき明るさよ
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 硬きまま膨らみ来る林檎の実
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな	
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 豆めしのいただきますもどかしう	角 アンカーの鉢巻長し運動会
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 電車到着見よ日本の更衣	角 水槽で終る 一生星祭
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 終点の駅に港や卒業す	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 火恋し人恋しとは思はねど
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 教室の壁の画鋏も夏休	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 土と水かけて終らす焚火かな
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 働いて針より細き蟻の脚	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 寒卵割って裸の寒卵
角 花冷の十四五人に出開帳	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 豆めしのいただきますもどかしう	角 アンカーの長き鉢巻運動会
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 電車到着見よ日本の更衣	角 水槽で終る 一生星祭
角 終点の駅に港や卒業す	角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 火恋し人恋しとは思はねど
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 教室の壁の画鋏も夏休	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 働いて針より細き蟻の脚	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 花冷の十四五人に出開帳	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら	角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 幹少し後は若葉や枝見えず	角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 豆ごはんいただきますももどかしう	角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 新参の墓石もある彼岸寺	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 水槽で終る 一生星祭
角 終点の駅に港や卒業す	角 電車到着見よ日本の更衣	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 田を植ゑて祭のとき明るさよ	角 火恋し人恋しとは思はねど
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 教室の壁の画鋏も夏休	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 働いて針より細き蟻の脚	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 花冷の十四五人に出開帳	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 たけのこの里もきのこの山も秋	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 幹少し後は若葉や枝見え	角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 着膨れの正体見たり夏蜜柑	角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 新参の墓石もある春の風	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 水槽で終る 一生星祭
角 終点の駅に港や卒業す	角 電車到着見よ日本の更衣	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 田を植ゑて祭のとき明るさよ	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 花篝忍者の潜む夜のお濠	角 働いて針より細き蟻の脚	角 書初や紙のま白に墨硯
角 花冷の十四五人に出開帳	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 うちの子の自慢話とその子猫	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 あの時もこの葉桜と夏柳	角 たけのこの里もきのこの山も秋	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 水槽で終る 一生星祭
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 新参の墓石もある春の風	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 終点の駅に港や卒業す	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 砂浜に夢の化石の桜貝	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 鷹に雫られたる鳥の骨白し
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 働いて針より細き蟻の脚	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 書初や紙のま白に墨硯
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地藏を冷やす夕立かな	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 昭和の日キヤラメル甘しチョコ苦し	角 たけのこの里もきのこの山も秋	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 幹少し後は若葉や枝見ええず	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	角 寒卵割つて裸の寒卵
角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 新参の墓石もある春の風	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 終点の駅に港や卒業す	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 スップインの涼しき顔で否と言ふ	角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 鷹に筆られたる鳥の骨白し
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 働くや針より細き蟻の脚	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 花冷の十四五人に出開帳	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	角 書初や紙のま白に墨硯
角 幹少し後は若葉や枝見えぬ	角 たけのこの里もきのこの山も秋	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 水槽で終る 一生 星祭	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑	角 台風に防潮堤の重たけれ	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 飛び立つや○の中から巣立鳥	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 新参の墓石もある春の風	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 終点の駅に港や卒業す	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 スップインの涼しき顔で否と言ふ	角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 鷹に雫られたる鳥の骨白し
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 蟬の字に憚の字の面影が	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 働くや針より細き蟻の脚	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 花冷の十四五人に出開帳	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 祠ごと地藏を冷やす夕立かな	角 書初や紙のま白に墨硯
角 豆ごはんいただきますももどかしう	角 たけのこの里もきのこの山も秋	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑	角 水槽で終る 一生星祭	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 台風に防潮堤の重たけれ	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 幹少し見えて青葉に枝見えす	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	

角 郊外はもうやはらかな春の土	角 幹少し見えて青葉に枝見え	角 台風に防潮堤の重たけれ
角 サイレンもチャイムも春の昼休	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 春昼や頭で数へる蝶くぢら	角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 新参の墓石もある春の風	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 終点の駅に港や卒業す	角 スప్పिनの涼しき顔で否と言ふ	角 鷹に雫られたる鳥の骨白し
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 蟬の字の憚に似る早かな	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 うちの子といふは猫の子日だまりの	角 働くや針より細き蟻の脚	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 書初や紙のま白に墨硯
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 玄関に小さき地べたや秋の暮	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 荒積みのテトラポッドに流れ星	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 水槽で終る 一生星祭	

角 郊外はもうやはらかな春の土	角 幹少し見えて青葉の木なりけり	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 サイレンもチャイムも春の昼休	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 春昼や頭で数へる蝶・鯨	角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ	角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 新参の墓石もある春の風	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 鷹に窺られたる鳥の骨白し
角 終点の駅に港や卒業す	角 スప్పिनの涼しき顔で否と言ふ	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 日本にも名曲のありクリスマス
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 蟬の字の憚に似る早かな	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 うちの子といふは猫の子日だまりの	角 働くや針より細き蟻の脚	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 書初や紙のま白に墨硯
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 昭和の日キヤラメル甘しチョコ苦し	角 荒積みのテトラポッドに流れ星	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 水槽で終る 一生星祭	
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 台風に防潮堤の重たけれ	

角 郊外はもうやはらかな春の土	角 幹少し見えて青葉の木なりけり	角 台風に防潮堤の重たけれ
角 サイレンもチャイムも春の昼休	角 飛び立つや○の中から巢立鳥	角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 春昼や頭で数へる蝶・鯨	角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ	角 柿の皮干すや時々ちぎり食ふ
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ	角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり	角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ	角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰	角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 新参の墓石もある春の風	角 水風呂をプールプールと喜びぬ	角 杭四五本冬日の中に鳥を待つ
角 終点の駅に港や卒業す	角 スప్పिनの涼しき顔で否と言ふ	角 鷹に雫られたる鳥の骨白し
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志	角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水	角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 栄螺なら強い戦車も作れさう	角 天使より大きな翼揚羽蝶	角 土と水かけて終らす落葉焚
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節	角 蟬の字の憚に似る早かな	角 日本製降誕祭のヒット曲
角 うちの子といふは猫の子日だまりの	角 働くや針より細き蟻の脚	角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 母校とて知る人もなし桜咲く	角 飛来する蚊や警告を発しつつ	角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪	角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も	角 書初や紙のま白に墨硯
角 花冷の十四五人に出開帳	角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな	角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し	角 澄む水の子の長靴が踏み荒らす	角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 豆ごはんいただきますもどかしう	角 荒積みのテトラポッドに流れ星	角 三月を破り捨てたる四月かな
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣	角 水槽で終る 一生星祭	